

競技審判上の注意

1. 本大会は、令和7年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程及び公認審判員規程により行います。
2. 本大会の運営及び審判は、全て大会本部で行います。サービスジャッジは準決勝より配置します。
3. 大会日程両日において、タイムテーブルの1巡目のみ開始時間が決まっています。
また、1巡目のみ、選手、コーチは試合のコールがされましたら直接コートに入ってください。
2巡目以降は空いたコートに入る流し込み方式で行います。競技を円滑に進めるため、「選手招集」等の放送に十分に気をつけてください。
オープンチャットでも「選手招集」等のお知らせをします。
4. コート入場後の公式練習はありません。
5. 試合が連続する場合は、原則として試合終了後15分後に次の試合を開始します。競技役員の指示に従い、選手は選手招集所にすみやかに集合してください。
6. コーチ席は2席設置します。コーチ席に入ることができるのは、登録したコーチのみで、（公財）日本バドミントン協会公認審判員有資格者または（公財）日本スポーツ協会公認バドミントンコーチ有資格者としします。
7. コートへの入場は、主審の先導により組合せ番号の若番選手から行います。退場は、主審の先導により勝利選手から行います。
8. インターバル中のアドバイスは、同時に2人まで入ってもよいが、主審が「20秒」とコールしたら、すみやかにコートから離れ、選手はコートに入ってください。
9. 試合中の水分補給、ラケットの交換、汗拭き、靴ひもの締め直し、シャトルの交換等、プレーを中断する場合は、必ず主審の許可を得てください。
10. 荷物はバックの中にひとまとめにし、主審側のショートサービスライン付近に置くようにしてください。
11. 氷嚢、滑り止めシートは、コーチ席で保管してください。氷嚢は小型の保冷バッグ（ソフトバッグ）等に入れてください。
12. シャトルの選択は認めません。また、シャトルの交換については主審が決定しますので、指示に従ってください。
13. 試合中のけがや病気に対しては、レフェリーが判断します。
14. 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。もし判定に対して疑問のある場合には、次のサービスが行われる前に「質問」をすることができます。ここで質問のできる者とは、当該選手に限ります。
15. コーチは、試合中はコートのそばに立ってはいけません。もし、コーチがほかのコートへ移動する場合には、必ずシャトルがインプレーでない時に行ってください。

16. 競技フロアー内での携帯電話、電子機器、カメラの使用を禁止します。電源をOFFにしてください。
17. 試合開始前および終了後の選手同士及び主審等との握手を推奨します。試合終了後、勝者は勝者サインを行ってください。
18. 試合中の服装は、(公財)日本バドミントン協会審査合格品とします。試合時必ず上着の背面中央にゼッケンをつけてください。ゼッケンは縦25cm以内、横30cm以内とし、都県名及び個人名(フルネーム)を明記してください。なお文字の大きさは大会運営規程第24条を適用します。また、ユニフォームの広告(ロゴ)については、令和6年4月16日付の日小連文書のとおりとします。また、ゲーム開始時には上衣の裾は下衣の中に入れてください。ゲーム中に出た場合は、インターバル時に再度入れてください。
※関東Tシャツは着用可とします。
19. コーチは所定の名札(自都県発行のIDカード)を着用の上、服装は公認審判員規程第5条12項(8)を厳守し、体育館シューズで入場してください。
※Tシャツは、チームで揃えたもののみ着用可とします。
※ショートパンツ(7分丈含む)での着席は認めません。
※名札を(IDカード)を着用していない方は、競技フロアー内には入れません。
20. プレー中に人命の危機に係る事例(意識の喪失、心肺の停止)が生じた場合、医療関係者がコートに到着するまでに、選手の意識の確認や呼吸の有無の確認を躊躇せず行い、状況に応じて応急処置(胸骨圧迫等)を行う、もしくは、周りの人に協力を求め、それを実施してもらってください。